

昭和拾貳年  
丁丑春

為末息元

心賞  
為末書

丁丑春  
為末書

自一枚天地返元一春空

人の門下の夜の春馳良きなり

堂びのめ一鏡の東風を舞川を春

堂里がけのあたりのそら

めそく星雨はるりや帆針

續つらら烟の蝶飛小掛のそら

至の井と三人の遊の

笑する  
壁のざ小給や  
桃の心